

平成 30 年度全国学力・学習状況調査～夕張市

平成 30 年 11 月 夕張市教育委員会

平成 30 年度全国学力・学習状況調査について北海道教育委員会は 11 月 6 日、14 管内別の平均正答率を発表しました。夕張市教育委員会は夕張市の調査結果を報告いたします。

1 夕張市の調査参加児童生徒数（平成 30 年 4 月 17 日実施）

○夕張市立ゆうばり小学校

国語 A 問題・国語 B 問題・算数 A 問題・理科問題に 34 人が参加

○夕張市立夕張中学校

国語 A 問題・国語 B 問題・数学 A 問題・数学 B 問題に 26 人、理科問題に 27 人参加

2 教科の領域別レーダーチャート

小学校は、全道の平均正答率を上回る領域はありませんでしたが、国語 A（話すこと・聞くこと）・算数 A（量と測定）、理科（生命）の領域が接近しています。

中学校は、国語 A の領域で全国・全道の平均正答率の接近し、「書くこと」の領域では上回りました。数学 B（資料の活用）、理科（生物・地学領域）で接近しています。漢字や計算の反復練習、算数・数学の少人数指導・学習支援員の活用により、教科の基礎的内容が習得され、諦めずに問題に取り組んでいます。

3 児童生徒質問紙調査

自尊感情や将来の夢・目標を調査する質問では、おおかたの児童生徒が自分のよいところを自認しており、目標をもって学校生活を送っていますが、若干「あてはまらない」と回答している児童生徒もいます。さまざまな場を通して成功体験を積み重ねる必要があります。

放課後や週末の過ごし方では、小学校：①習い事・スポーツ・家族と過ごす②テレビ・ビデオ・ゲーム・インターネット③勉強・読書。中学校：①テレビ・ビデオ・ゲーム・インターネット②部活動・スポーツ・習い事③家族と過ごす④勉強・読書の順で回答。勉強や読書をする時間が少なく、生活リズムを整えようとする態度の育成が必要です。

夕張の子どもたちに社会で自立するために必要な学力を身に付けさせることができるよう学校、家庭、地域、行政が一体となって、主体的・対話的で深い学びを実現できる授業改善と望ましい生活習慣の確立に向けた取組をさらに進めてまいります。